

完新世海岸段丘に記録された下総台地 房総半島の傾動隆起

Crustal uplift with tilting of the Shimousa Upland – Boso Peninsula, Northeast Japan, recorded in Holocene coastal terraces

宮内 崇裕[1], 宍倉 正展[2], 越後 智雄[3]

Takahiro Miyuchi[1], Masanobu Shishikura[2], Tomoo Echigo[3]

[1] 千葉大・理・地球科学, [2] 地質調査所, [3] 千葉大・院・人間・地球環境科学

[1] Earth Sci., Chiba Univ., [2] GSJ, [3] Human and Earth Science Grd., Chiba Univ

東北日本外弧に位置する関東平野の南東部には、鹿島 房総隆起帯をはじめとする第四紀後期の地殻変動域が存在する。しかし、その変動様式の認定・実態については不確かな点が多い。完新世に離水した海岸段丘（平野）の高度や関連する堆積物の高度・層相解析・14C年代測定に基づいて、隆起の成分分析を行った結果、下総台地房総半島北部をなす上部地殻は、更新統・更新世段丘の北西傾動から変化して、最近数千年間では北方へ 1/5000程度の傾動隆起運動を行っていることが判明した。50km 超の変動規模は、非地震性の長波長広域地殻変動を示す可能性が大きい。

東北日本外弧に位置する関東平野の南東部には、鹿島 房総隆起帯をはじめとする第四紀後期の地殻変動域が存在する。しかし、その変動様式の認定・実態については不確かな点が多い。完新世に離水した海岸段丘（平野）の高度や関連する堆積物の高度・層相解析・14C年代測定に基づいて、隆起の成分分析を行った結果、下総台地房総半島北部をなす上部地殻は、更新統・更新世段丘の北西傾動から変化して、最近数千年間では北方へ 1/5000程度の傾動隆起運動を行っていることが判明した。50km 超の変動規模は、非地震性の長波長広域地殻変動を示す可能性が大きい。